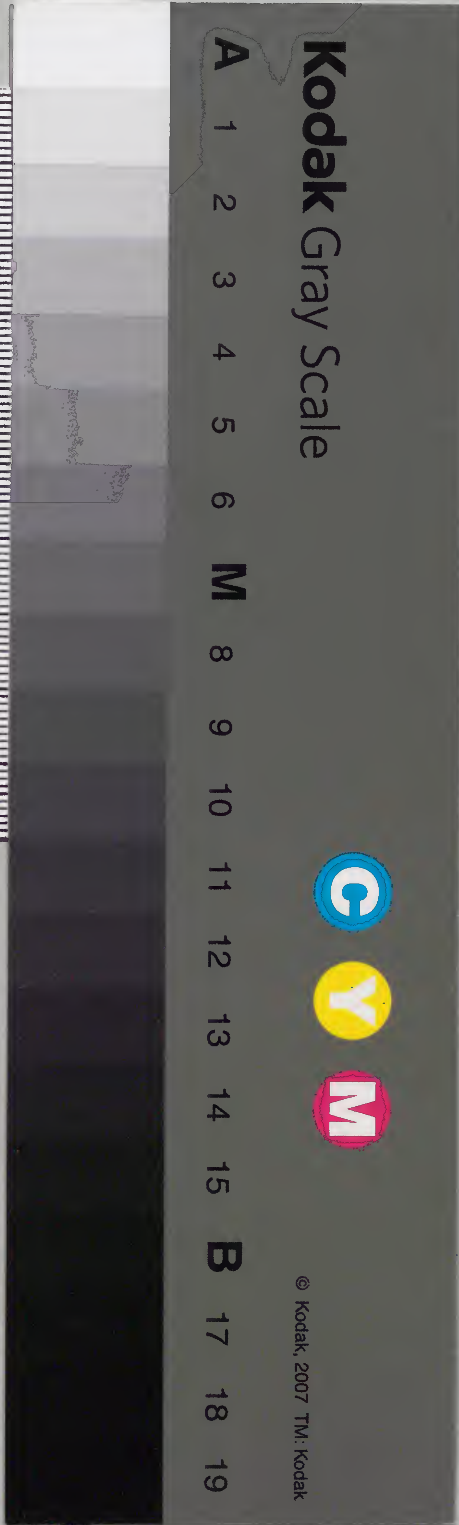


類歌和歌玉原集 初編 上

和書門
二五五八九
七〇函
三架
冊
類

内閣文庫
番號 和 25589
冊數 3 (1)
函號 201 27

201-27



綴じ部（喉部分）の文字等が開きが不鮮明な箇所あり

村上天大人御新

類聚の歌玉藻卷

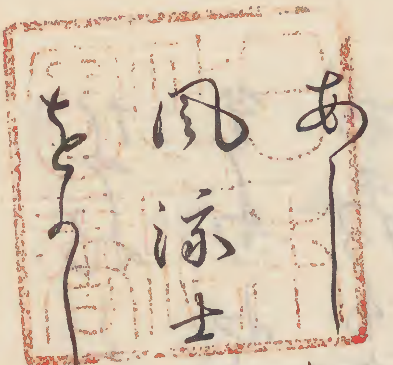
初編 卷三冊

名山書林聖回世嘉堂梓

501-51

玉許乃之河國

友成卷海人輝小



あしは某村上子心と糸
風流士も弁りあれ
まうきまを八橋
乃まわあまに吉田乃



崎一とて松華北池館に
松市を以て一に之を以て
又久元季の自きつ梨

出雲高補言池

席

翠乃海浪志望の南宮 大津式部左
傳の志望の南宮 大津式部左
傳の志望の南宮 大津式部左
傳の志望の南宮 大津式部左
傳の志望の南宮 大津式部左
傳の志望の南宮 大津式部左

試筆

かゝるむの... 尊澄

あゝ一夜あ... 千齋

あゝ... 遊翁

あゝ... 春庭

あゝ... 成岳

あゝ... 猛度

あゝ... 圓

あゝ... 蓮月

あゝ... 櫻木

初春

初春月

初春風

初春霞

初春雨

都初春

初春道

初春祝君

春まて... 義楢

あか... 直虎

吉... 成岳

秋... 磯足

霜... 陸子

天... 土佐子

た... 直兄

い... 千齋

予... 八穂

い... 式部

春從
東到

あつたはたはたふくしつとてはるかに春のあつて舞 歌城

春色
從東到

春風よりあつたはたはたふくしつとてはるかに春のあつて舞 李鷹

風光
日々新

あつたはたはたふくしつとてはるかに春のあつて舞 弘子

春米
毎山
有春

あつたはたはたふくしつとてはるかに春のあつて舞 敏雅

氷始解
春風
解氷

あつたはたはたふくしつとてはるかに春のあつて舞 近嶺

池東東頭
風度解

あつたはたはたふくしつとてはるかに春のあつて舞 秋城

春風
一時来

あつたはたはたふくしつとてはるかに春のあつて舞 十齋

子日

二葉の松はあつたはたはたふくしつとてはるかに春のあつて舞 渡辺 綱光

あつたはたはたふくしつとてはるかに春のあつて舞 正高

あつたはたはたふくしつとてはるかに春のあつて舞 知紀

あつたはたはたふくしつとてはるかに春のあつて舞 千齋

あつたはたはたふくしつとてはるかに春のあつて舞 磯足

あつたはたはたふくしつとてはるかに春のあつて舞 叙 普幹

あつたはたはたふくしつとてはるかに春のあつて舞 永見 吉孝

あつたはたはたふくしつとてはるかに春のあつて舞 歌城

山家
子日

あつたはたはたふくしつとてはるかに春のあつて舞 義稻

子日祝

霞

百鳥の夢いづれも名残にかほみのたちへぞつ 永沢 躬国

大空ふらふきあふりて春を花むもよもかへもあふれ 知紀

をよもあふらふらふきあふらふ 多羅尾 春山みき 氏純

谷川をかこけりも音やかほむやあち乃きく 岑 秀啓

春の北に及のけり 岑 春の末もあふらふ 岑 栢

たし 蓮月

ふつ 芦菴

霞始華 義維

山霞 依平

村松 弘道

や 千齋

あ 磯足

春 千齋

日 歌城

あ 芳枝

見 直見

ま 依平

く 仲輔

胡 千齋

野 春庭

野 野

野 野

野 野

野 野

野 野

野 野

野外霞

ついでにのみとて布子の白さをたゞしむる霞花のふ

近嶺

淵霞

於麻川八十淵の波のまをり一筆ちのふかき霞はるる

磯足

渡霞

三徳川の浦のまをりひたたく霞をくくかきしる

芦菴

海辺霞

白波のまをりしるる霞はるるかきみのねのほのぼのの霞

千齋

湖霞

あまのついでにのみとて布子の白さをたゞしむる霞花のふ

李鷹

湖霞

あまのついでにのみとて布子の白さをたゞしむる霞花のふ

尚規

湖霞

あまのついでにのみとて布子の白さをたゞしむる霞花のふ

成岳

湖霞

あまのついでにのみとて布子の白さをたゞしむる霞花のふ

利亮

湖霞

あまのついでにのみとて布子の白さをたゞしむる霞花のふ

在河

湖上霞

あまのついでにのみとて布子の白さをたゞしむる霞花のふ

了観

河上霞

あまのついでにのみとて布子の白さをたゞしむる霞花のふ

房生

霞中港

あまのついでにのみとて布子の白さをたゞしむる霞花のふ

依平

霞中港

あまのついでにのみとて布子の白さをたゞしむる霞花のふ

義相

霞中港

あまのついでにのみとて布子の白さをたゞしむる霞花のふ

遊扇

霞中港

あまのついでにのみとて布子の白さをたゞしむる霞花のふ

守部

霞中港

あまのついでにのみとて布子の白さをたゞしむる霞花のふ

長廣

霞中港

あまのついでにのみとて布子の白さをたゞしむる霞花のふ

直好

霞中港

あまのついでにのみとて布子の白さをたゞしむる霞花のふ

祐良

霞中港

あまのついでにのみとて布子の白さをたゞしむる霞花のふ

伊藤

霞中港

あまのついでにのみとて布子の白さをたゞしむる霞花のふ

菅菴

餘寒

こけり一見の雪のふりしるすのそら

千齋

餘寒月

月をばとてしるすのそら

仲補

餘寒水

水はけのそら

清樹

二月餘寒

如月の梅のそら

義指

深溪餘寒

水はけのそら

歌城

殘雪

雪はけのそら

羽部

松殘雪

雪はけのそら

有岑

名所殘雪

雪はけのそら

重光

春雪

雪はけのそら

正謙

名所

雪はけのそら

透翁

名所

雪はけのそら

芦菴

柳

風あててまじく柳はうらなむあめをうたぐり 守部

夕月半ばまじくれま柳のかげをなむあそび 松平 高蔭

吹くあそび風のまじくも二のつらふ柳の糸をうたぐり 吉胤

柳舞春

うちまじく門の柳もあ風のつらまかをむあつら 光彪

柳舞 春色

青柳のいとまじくもあそびまじくもあそび 歌城

霞中柳

青柳のいとまじくもあそびまじくもあそび 蓮月

雨中柳

青柳のいとまじくもあそびまじくもあそび 依平

柳風

柳かまひまじくもあそび柳かまひまじくもあそび 暉隆

水辺柳

水辺の風まじくもあそび水辺の風まじくもあそび 磯磨

水辺柳

水辺の風まじくもあそび水辺の風まじくもあそび 春平

河辺柳

河辺の風まじくもあそび河辺の風まじくもあそび 義箱

故郷柳

故郷の風まじくもあそび故郷の風まじくもあそび 知紀

田家柳

田家の風まじくもあそび田家の風まじくもあそび 義箱

名取柳

名取の風まじくもあそび名取の風まじくもあそび 磯足

行路柳

行路の風まじくもあそび行路の風まじくもあそび 長嗣

門柳

門の風まじくもあそび門の風まじくもあそび 芦菴

門柳

門の風まじくもあそび門の風まじくもあそび 亞元

門柳

門の風まじくもあそび門の風まじくもあそび 直好

門柳

門の風まじくもあそび門の風まじくもあそび 芦菴

門柳

門の風まじくもあそび門の風まじくもあそび 芦菴

春雨

千齋
 上田 仲敏
 蓮月
 知紀
 為子
 式部
 正高
 茂枝
 文雄
 弘道

春曙

歌城
 磯足
 元貞
 清風
 戒言
 黄中
 尚規
 志友
 直見
 守都

朝春雨

夜春雨

春夜

春雨

野春雨

遠山

山春

浦春

海春

禁中

春月

さかづくにふかきつゆあはれむ月夜を望むを見あ中島規

花雪の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ千齋

あまの音の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ和雄

かきつゆの梅の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ大成

清のあまの音の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ蓮月

さかづくにふかきつゆあはれむ月夜を望むを見あ正頂

あまの音の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ成岳

かきつゆの梅の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ秋風

清のあまの音の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ萃直

さかづくにふかきつゆあはれむ月夜を望むを見あ惟光

中島

千齋

和雄

大成

蓮月

正頂

成岳

秋風

萃直

惟光

春月幽

春月

河上

田上

春中

椿

喚子鳥

目つ光をまなむ月夜を望むを見あ翁滿

花雪の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ光彪

あまの音の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ芦菴

かきつゆの梅の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ式部

清のあまの音の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ清先

さかづくにふかきつゆあはれむ月夜を望むを見あ千蔭

あまの音の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ光彪

かきつゆの梅の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ寺部

清のあまの音の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ直光

さかづくにふかきつゆあはれむ月夜を望むを見あ常清

あまの音の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ芦菴

芦菴

常清

直光

清先

式部

芦菴

光彪

千蔭

翁滿

雲雀落

雲雀の音の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ

芦菴

夕雲雀

夕雲雀の音の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ

常清

雲雀落

雲雀の音の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ

直光

夕雲雀

夕雲雀の音の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ

清先

雲雀落

雲雀の音の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ

式部

夕雲雀

夕雲雀の音の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ

芦菴

雲雀落

雲雀の音の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ

光彪

夕雲雀

夕雲雀の音の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ

千蔭

雲雀落

雲雀の音の香きつゆをまなむ月夜を望むを見あ

翁滿

雉

家の根も大井の如貴き花のついでとて雉鳴り

千蔭

一言聴くともかしの井の底に居る雉鳴り

栢

夕まゝの雉鳴りもせしむる雉鳴りのついで

利亮

波の音を雉鳴りのついでに白く雉鳴り

吉胤

我思ふ雉鳴りもせしむる雉鳴りのついで

亞元

雉鳴りのついでに雉鳴りもせしむる雉鳴り

花香

朝日に雉鳴りもせしむる雉鳴りのついで

豊頼

花見に雉鳴りもせしむる雉鳴りのついで

式部

旭の雉鳴りもせしむる雉鳴りのついで

磯足

初日の雉鳴りもせしむる雉鳴りのついで

清風

中野

清風

帰雁

小山田をうへまゝにせよとて人のついでに

平 完

梅の香も雉鳴りのついでに雉鳴り

山田 恭平

春の雉鳴りもせしむる雉鳴りのついで

蓮月

花の雉鳴りもせしむる雉鳴りのついで

義裕

中一社の雉鳴りもせしむる雉鳴りのついで

依平

乃まゝの雉鳴りもせしむる雉鳴りのついで

秀親

あけの雉鳴りもせしむる雉鳴りのついで

春庭

曉の雉鳴りもせしむる雉鳴りのついで

在阿

夜ついでに雉鳴りもせしむる雉鳴りのついで

利亮

曉帰雁

曉更 雁
深夜 雁
震中 雁

心ゆくゆかり花鳥の如きかひのほろりまはせら 原田
天つしうららけの道にわたりてはまらば
光彪
蓮月

都 雁
遠 雁
歸 雁

九十九の夜はあけぬとてはまらば
正韶
心城

旅 雁
歸 雁
歸 雁

花のよすがにまはるる人の心はまらば
景樹
黄中

燕

夫のよすがにまはるる人の心はまらば
知紀

燕 末

夫のよすがにまはるる人の心はまらば
黄中

簾外燕

夫のよすがにまはるる人の心はまらば
直好

諸鳥呼

夫のよすがにまはるる人の心はまらば
守部

春 駒

夫のよすがにまはるる人の心はまらば
翁滿

沢春駒

夫のよすがにまはるる人の心はまらば
仲輔

正 高

夫のよすがにまはるる人の心はまらば
正高

忠 友

夫のよすがにまはるる人の心はまらば
忠友

歌 城

夫のよすがにまはるる人の心はまらば
歌城

義 稻

夫のよすがにまはるる人の心はまらば
義稻

翫花

くまねをさかちていそいそ花をみりて春 清水 謙光

思花

おもひをばらばらとていそいそ花をみりて春 秋 日潤

花宴

花の目れをのまももれ花をみりて春 大僧正 義嚴

花前真

このまはまはみりていそいそ花をみりて春 正廣

花津頭

このまはまはみりていそいそ花をみりて春 植松 磯足

花時
心不静

このまはまはみりていそいそ花をみりて春 植松 有園

花辺
行日遅

このまはまはみりていそいそ花をみりて春 知紀

花下
送日

このまはまはみりていそいそ花をみりて春 義相

花下
忘帰

このまはまはみりていそいそ花をみりて春 三島 亞元

花下
言志

このまはまはみりていそいそ花をみりて春 自寛

花盛

このまはまはみりていそいそ花をみりて春 文雄

震中花

このまはまはみりていそいそ花をみりて春 清先

雨中花

このまはまはみりていそいそ花をみりて春 梶原 依平

雨後花

このまはまはみりていそいそ花をみりて春 昭豊

曙花

このまはまはみりていそいそ花をみりて春 近嶺

花

このまはまはみりていそいそ花をみりて春 千齋

花

このまはまはみりていそいそ花をみりて春 磯足

花

このまはまはみりていそいそ花をみりて春 鈴木 和雄

朝花

このまはまはみりていそいそ花をみりて春 重胤

花

このまはまはみりていそいそ花をみりて春 仲敏

夕花

夕花の影を照らす月夜は
暉隆

本居 藤子

清先

夜思花

夜思花の影を照らす月夜は
茂世

月前花

月前花の影を照らす月夜は
仲敏

躬園

常清

重遠

義縮

蓮道

花添

春月

花月夜

名所花

本宿山 蓮月

中野 藤子

佐末 清風

長儀

梅子

高須 為根

芦菴

義標

音豊

遠山花

遠山花の影を照らす月夜は
寺山 音豊

山花
隔履
遠者
山花
遠望
山花

山のまへ花のむらさき
守部

霞のうらわぬ花の都より
知紀

不慮のしるし花の守り
守部

楓のくさむら花の歌
歌城

お山のたのしみ花の境
式部

山にのぼる花の黄中
黄中

さしゆく隣の花の重郷
重郷

旅人のまじり花の式部
式部

訪人の山花の直好
直好

菊花

京都花
俊夫

禁中花
知紀

閑居花
磯店

閑中花
千齋

隣家花
久胤

田家花
忠友

塩屋花
大平

海辺花
武備

舟のまじり花の
蓮月

舟のまじり花の
嵩蹊

磯花

磯花をすまふらん花はさかすかゆ一沖をれば 光彪

遠島花

遠島花をすまふらん花はさかすかゆ一沖をれば 菅沼 斐雄

河辺朝花

河辺朝花をすまふらん花はさかすかゆ一沖をれば 西田 惟恒

河上花

河上花をすまふらん花はさかすかゆ一沖をれば 西光寺 智天

花停水

花停水をすまふらん花はさかすかゆ一沖をれば 谷川のついで 式部

松間花

松間花をすまふらん花はさかすかゆ一沖をれば 守部

老後花

老後花をすまふらん花はさかすかゆ一沖をれば 成岳

花志老

花志老をすまふらん花はさかすかゆ一沖をれば 千齋 磯足

花麻

花麻をすまふらん花はさかすかゆ一沖をれば 守部

落花

落花をすまふらん花はさかすかゆ一沖をれば 亮泉

雨中落花

雨中落花をすまふらん花はさかすかゆ一沖をれば 仲田 黄中

風前落花

風前落花をすまふらん花はさかすかゆ一沖をれば 殿村 常久

花隨風

花隨風をすまふらん花はさかすかゆ一沖をれば 躬國 春庭

無風落花

無風落花をすまふらん花はさかすかゆ一沖をれば 北島 玄孝

行路落花

行路落花をすまふらん花はさかすかゆ一沖をれば 磯足

關路
落花

あまのこころをよそにわかれぬの華を花のちりてしるし
兼父

深山
落花

ちりて花ちりてあはれぬもいづれか
文雄

古官
落花

いづれかちりてあはれぬもいづれか
村田
春海

故柳
落花

志賀の柳花の目もあはれぬもいづれか
蓮月

古寺
落花

あまのこころをよそにわかれぬの華を花のちりてしるし
磯足

古寺
落花

とくちをよそにわかれぬの華を花のちりてしるし
蓮月

河落花

あまのこころをよそにわかれぬの華を花のちりてしるし
常雄

河落花

あまのこころをよそにわかれぬの華を花のちりてしるし
春庭

河落花

あまのこころをよそにわかれぬの華を花のちりてしるし
春庭

河上
落花

あまのこころをよそにわかれぬの華を花のちりてしるし
貞為

磯落花

あまのこころをよそにわかれぬの華を花のちりてしるし
大氏

水郷
落花

あまのこころをよそにわかれぬの華を花のちりてしるし
尚規

水辺
落花

あまのこころをよそにわかれぬの華を花のちりてしるし
政宏

水上
落花

あまのこころをよそにわかれぬの華を花のちりてしるし
春庭

旅中
落花

あまのこころをよそにわかれぬの華を花のちりてしるし
翁満

坐久
落花

あまのこころをよそにわかれぬの華を花のちりてしるし
寶山

惜花
落花

あまのこころをよそにわかれぬの華を花のちりてしるし
遊翁

不拂庭
落花

あまのこころをよそにわかれぬの華を花のちりてしるし
黄中

志賀
山越

あまのこころをよそにわかれぬの華を花のちりてしるし
亜元

蝶

あつらひ花のたゞしきさきさきちりりてはるかに
守部

あつらひ花のたゞしきさきさきちりりてはるかに
蓮月

あつらひ花のたゞしきさきさきちりりてはるかに
遊翁

あつらひ花のたゞしきさきさきちりりてはるかに
翁満

あつらひ花のたゞしきさきさきちりりてはるかに
潮園村

あつらひ花のたゞしきさきさきちりりてはるかに
明松壽

あつらひ花のたゞしきさきさきちりりてはるかに
鳥子

あつらひ花のたゞしきさきさきちりりてはるかに
遊翁

あつらひ花のたゞしきさきさきちりりてはるかに
芦菴

土筆

董

あつらひ花のたゞしきさきさきちりりてはるかに
守部

あつらひ花のたゞしきさきさきちりりてはるかに
春庭

あつらひ花のたゞしきさきさきちりりてはるかに
翁満

あつらひ花のたゞしきさきさきちりりてはるかに
仲輔

あつらひ花のたゞしきさきさきちりりてはるかに
和雄

あつらひ花のたゞしきさきさきちりりてはるかに
光彪

あつらひ花のたゞしきさきさきちりりてはるかに
義指

あつらひ花のたゞしきさきさきちりりてはるかに
古道青龍寺

あつらひ花のたゞしきさきさきちりりてはるかに
磯足

故郷董

野外董

董深袖

雨中董

董深袖

野外董

故郷董

躑躅

秋の風をよめる花の香もよめる

直好

岸躑躅

花の香もよめる花の香もよめる

翁満

躑躅紅

花の香もよめる花の香もよめる

光彪

山躑躅

花の香もよめる花の香もよめる

義指

折躑躅

花の香もよめる花の香もよめる

好道楠田

燕子花

花の香もよめる花の香もよめる

依平

春の風をよめる花の香もよめる

正源

花の香もよめる花の香もよめる

亜元

牡丹

花の香もよめる花の香もよめる

冬照橋

廿日草

花の香もよめる花の香もよめる

翁満

山吹

花の香もよめる花の香もよめる

磯足

花の香もよめる花の香もよめる

光彪

花の香もよめる花の香もよめる

景樹

花の香もよめる花の香もよめる

翁満

花の香もよめる花の香もよめる

繁里

花の香もよめる花の香もよめる

知紀

花の香もよめる花の香もよめる

遊翁

花の香もよめる花の香もよめる

依平

水
山吹

花の香もよめる花の香もよめる

千任黒沢

花の香もよめる花の香もよめる

父道小久保

花の香もよめる花の香もよめる

父道

河山吹 垣なく細くしるしをわたりてはまじりしきたるやゆきまのま 直好
滝下 布引の滝の白いくちねのまをまあながさきーの山吹 堀尾 いて子

池山吹 岩をけり年ふら代もまのまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

崎山吹 山吹の花いろをまきまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

庭山吹 山吹の花いろをまきまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

藤 春の花いろをまきまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

松上藤 春の花いろをまきまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

安国 春の花いろをまきまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

藤懸松 春の花いろをまきまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

正愛 春の花いろをまきまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

永忠 春の花いろをまきまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

美濃子 春の花いろをまきまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

元貞 春の花いろをまきまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

いさ子 春の花いろをまきまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

春庭 春の花いろをまきまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

直好 春の花いろをまきまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

知紀 春の花いろをまきまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

歌城 春の花いろをまきまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

守部 春の花いろをまきまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

社頭藤

春の花いろをまきまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

守部

古寺藤

春の花いろをまきまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

歌城

扉藤

春の花いろをまきまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

知紀

橋下
藤花

春の花いろをまきまきまきーの山吹まれまきま 安田 御年

直好

春天象

まきまき三月のうきよの霞をよききりなり

歌城

春日

くろくはあやしの春大空は年のをゆくあそびあそび

千齋

春日

たぐいのあしと花をみればあそびのまはりのあそび

黄中

春日

うららかなあそびのれは見えぬこころはあそびあそび

圓

暮山

柳をよもむもくといれうきよのあそびあそび

直好

暮山

わせたし松のうらねたきも入あそびのあそびあそび

遊翁

大野

あふはあそびあそびあそびあそびあそびあそび

磯足

田舎

まきかへは門田の東は海あそびあそびあそびあそび

清風

春眺望

見ればあそびのあそびあそびあそびあそびあそび

長尾 興連

春夜

柳をより月あそびあそびあそびあそびあそび

倭文子

春風

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

光彪

春風

春風の枝をきたらあそびあそびあそびあそび

仲秋

春山

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

藤子

春里

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

依平

春水郷

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

光彪

春野

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

守部

春海路

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

利亮

春磯

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

義蔵

春水

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

吉胤

春水

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

圓

春流
飲馬

駒ももとの春をて流かきくしつゝさきさき花の目波
在阿

春田家

茅花のよもぎもさきつゝさきさき花の目波
清風

春人串

梅花ちきりもさきさき花の目波
直好

心静
酌春酒

春の夜はまもさきさき花の目波
倭文子

春琴

おんゝゝおんゝゝおんゝゝおんゝゝおんゝゝ
利亮

春杖

おぬゝゝおぬゝゝおぬゝゝおぬゝゝおぬゝゝ
光彪

春衣

糸ゆるあさひつゝさきさき花の目波
富春

春枕

春の夜はまもさきさき花の目波
清永
完
利亮

春竹

竹の葉もさきさき花の目波
利亮

春獸

春の夜はまもさきさき花の目波
義縮

春蟲

遊葉もさきさき花の目波
清風

春雜

大内川春はゆゝゆゝもさきさき花の目波
長嗣

春神祇

あゝ母の人の心も花の目波
春海

春神社

まゝらもさきさき花の目波
繁里

春社頭

初春はとも神代のもちもさきさき花の目波
政富

春祝

四方の民もさきさき花の目波
翁満

春社頭

位のいゝも神代のもちもさきさき花の目波
高雅

春祝

四方の民もさきさき花の目波
友于

暮春

磯足

千蔭

圓

景樹

暮春月

依平

千齋

暮春雨

義稻

海上暮春

亮泉

田家暮春

光彪

水邊暮春

芦菴

暮春花

亞元

暮春鶯

式部

暮春

謙光

聞子規

遊翁

殿時

歌城

春尚少

式部

寂々

吉川

春將晚

李廣

暮春

朝意

三月尽

高橋

三月鐘

頭

玉藻集二卷

妻

首妻

夕涼の影を花の梢より添へて思ふ二月の月

清光

首妻朝

志まてはるす花とみよの香ははれぬのころあひて

近嶺

首妻水

かきかて煮の湯のうけこれハ口かへるはあはれ

式部

首妻

友あひの花もあまのゆきをひて友をさぐる庭の比

圓

首妻

さしとてうれあもけあふ心乃とまゝあはれ

平元

首妻里

垣つきあひの気の白む衣のゆふ友あはれ

依平

山家

あふうへ入るよといぬ山甲うたましく也あはれ

守部

竹亭

折返きすて井よひて吹風まはる友あはれ

尚規

妻

更衣

うり香の梅をさすわづもれは深衣わづりうすも

儀足

とまは海を渡るも衣のあまからいもあは梅ハ

遊翁

あふれた梅はうのーとふゆらもさす衣はさす

守部

更衣
惜春

其衣身に一つも是れ梅は志いふはうらうら

光彪

山家
更衣

梅をさす山里いふもさす梅は梅はさす

義楢

残花

仍春も道のやうらひあはるところくたはまも花はく

翁満

餘花

未だみまは山あはくさなうらぬ梅やあはのさ

和雄

雨
餘花

おくまのさす梅はさす梅はさす梅はさす

歌成

谷
餘花

梅はさす梅はさす梅はさす梅はさす

義楢

遅櫻

世の春はさす梅はさす梅はさす梅はさす

圓

新樹

其はさす梅はさす梅はさす梅はさす

清先

雨
新樹

花はさす梅はさす梅はさす梅はさす

啓純

新樹
初月

あやもく梅はさす梅はさす梅はさす

光彪

新樹風

梅はさす梅はさす梅はさす梅はさす

歌城

朝新樹

あまは梅はさす梅はさす梅はさす

守部

山新樹

花はさす梅はさす梅はさす梅はさす

亞元

水
新樹

梅はさす梅はさす梅はさす梅はさす

松翁

水
新樹

梅はさす梅はさす梅はさす梅はさす

和雄

水
新樹

梅はさす梅はさす梅はさす梅はさす

知紀

水
新樹

梅はさす梅はさす梅はさす梅はさす

栢

新竹

いづのまにも代の松きしきりてさうねんたすきあす

景嗣

葵

くさむくもあひたりし年々もあはれはかきあはれむ

義指

葵

あつたひも神の福のしるしにまはるるはまはるる

清先

葵

あつたひも神の福のしるしにまはるるはまはるる

守部

葵

あつたひも神の福のしるしにまはるるはまはるる

能子

山葵

あつたひも神の福のしるしにまはるるはまはるる

栢

山葵

あつたひも神の福のしるしにまはるるはまはるる

利亮

加茂祭

あつたひも神の福のしるしにまはるるはまはるる

光彪

淮佛

あつたひも神の福のしるしにまはるるはまはるる

歌城

淮佛

あつたひも神の福のしるしにまはるるはまはるる

式部

卵花

あつたひも神の福のしるしにまはるるはまはるる

勝文

卵花

あつたひも神の福のしるしにまはるるはまはるる

久足

卵花

あつたひも神の福のしるしにまはるるはまはるる

みの子

卵花

あつたひも神の福のしるしにまはるるはまはるる

貞為

卵花

あつたひも神の福のしるしにまはるるはまはるる

元貞

卵花

あつたひも神の福のしるしにまはるるはまはるる

春庭

卵花

あつたひも神の福のしるしにまはるるはまはるる

規

卵花

あつたひも神の福のしるしにまはるるはまはるる

式部

卵花

あつたひも神の福のしるしにまはるるはまはるる

千齋

卵花

あつたひも神の福のしるしにまはるるはまはるる

明

新井

尋時鳥

まはらけの鳥の鳴き声はさかたにきこえぬ

歌城

初菱

あけぼのの菱の花はさかたにきこえぬ

清光

尋鵲

あけぼのの鵲の鳴き声はさかたにきこえぬ

蓮月

霍公鳥

あけぼのの鳥の鳴き声はさかたにきこえぬ

依平

林

あけぼのの鳥の鳴き声はさかたにきこえぬ

あつ子

盛

あけぼのの鳥の鳴き声はさかたにきこえぬ

白鷗

とつ子

あけぼのの鳥の鳴き声はさかたにきこえぬ

とつ子

亜光

あけぼのの鳥の鳴き声はさかたにきこえぬ

亜光

歌城

あけぼのの鳥の鳴き声はさかたにきこえぬ

歌城

翁端

あけぼのの鳥の鳴き声はさかたにきこえぬ

翁端

始開

あけぼのの鳥の鳴き声はさかたにきこえぬ

景嗣

首菱

あけぼのの菱の花はさかたにきこえぬ

弘道

郭公

あけぼのの鳥の鳴き声はさかたにきこえぬ

重道

郭公

あけぼのの鳥の鳴き声はさかたにきこえぬ

道定

郭公

あけぼのの鳥の鳴き声はさかたにきこえぬ

依平

郭公

あけぼのの鳥の鳴き声はさかたにきこえぬ

玄洲

郭公

あけぼのの鳥の鳴き声はさかたにきこえぬ

田実子

遠郭公

あけぼのの鳥の鳴き声はさかたにきこえぬ

千蔭

義指

あけぼのの鳥の鳴き声はさかたにきこえぬ

義指

千蔭

あけぼのの鳥の鳴き声はさかたにきこえぬ

千蔭

子規一聲

五月の雨の音をきいて一歩も歩かぬ

秀雄

五月の雨の音をきいて一歩も歩かぬ

蓮月

五月の雨の音をきいて一歩も歩かぬ

長翁

五月子規

五月の雨の音をきいて一歩も歩かぬ

成岳

五月の雨の音をきいて一歩も歩かぬ

千檀南宮

五月の雨の音をきいて一歩も歩かぬ

和雄

五月の雨の音をきいて一歩も歩かぬ

義雄

五月雨 鷓鴣

五月の雨の音をきいて一歩も歩かぬ

三田 勢

雨中子規

五月の雨の音をきいて一歩も歩かぬ

山科 元 知 記

雨時鳥

五月の雨の音をきいて一歩も歩かぬ

亮泉

五月の雨の音をきいて一歩も歩かぬ

蓮月

曙時鳥

五月の雨の音をきいて一歩も歩かぬ

景嗣

五月の雨の音をきいて一歩も歩かぬ

成岳

五月の雨の音をきいて一歩も歩かぬ

磯足

暁時鳥

五月の雨の音をきいて一歩も歩かぬ

景嗣

月前鳥

五月の雨の音をきいて一歩も歩かぬ

重英木村

五月の雨の音をきいて一歩も歩かぬ

陸子

五月の雨の音をきいて一歩も歩かぬ

蓮月

五月の雨の音をきいて一歩も歩かぬ

国瑛沙田

月下
杜宇

時を知らずの月... 中野 清風

時を知らずの月... 原田 要子

時を知らずの月... 教 忠明

時を知らずの月... 小島 荷庵

時を知らずの月... 教 蓮月

時を知らずの月... 朝花 義指

時を知らずの月... 朝花 秀房

時を知らずの月... 安徳 安徳

名所
社宇

開杜宇

開路
子規

里子規

故郷
子規

うらたを... 教 了雄

うらたを... 縮湍

うらたを... 蓮月

うらたを... 三子代

うらたを... 吉胤

うらたを... 茂世

うらたを... 村上 忠浄

うらたを... 知紀

うらたを... 延之

野外
子規

山家
子規

廬橘

たつ神ちきりいささか橘の花むしれきりいささかむ

永忠

返さむむしりいささか橘の花むしりいささかむ

春庭

あまのまはるくつらむしりいささかむ

成岳

くさくさのむしりいささかむ

圓

藤そつむしりいささかむ

蕭蹊

あまのまはるくつらむしりいささかむ

千蔭

吹風橘のむしりいささかむ

式部

風そつむしりいささかむ

雅之

あまのまはるくつらむしりいささかむ

吉胤

あまのまはるくつらむしりいささかむ

光彪

故郷橘

閑庭橘

早苗

春は田のむしりいささかむ

守部

むしりいささかむ

正

律は田のむしりいささかむ

栢

大いさかむしりいささかむ

蕭蹊

さつむしりいささかむ

蘆庵

あまのまはるくつらむしりいささかむ

春庭

雨中
早苗

五月のまはるくつらむしりいささかむ

磯足

あまのまはるくつらむしりいささかむ

隣紀

夕早苗のむしりいささかむ

式部

急早苗のむしりいささかむ

守部

水鷄

まの人の心をまわして雲の戸をとくか鷄もまもむもを

櫻木

暁水鷄

あけましてめでたき御座りませうか鷄もまもむもを

光彪

夜水鷄

夜更けの人の心をまわして雲の戸をとくか鷄もまもむもを

利亮

附夜水鷄

あけましてめでたき御座りませうか鷄もまもむもを

久和

月前水鷄

あけましてめでたき御座りませうか鷄もまもむもを

景嗣

泊水鷄

あけましてめでたき御座りませうか鷄もまもむもを

式部

古寺水鷄

あけましてめでたき御座りませうか鷄もまもむもを

芦菴

獨脚水鷄

あけましてめでたき御座りませうか鷄もまもむもを

文雄

西方水鷄

あけましてめでたき御座りませうか鷄もまもむもを

義箱

鷄川

あけましてめでたき御座りませうか鷄もまもむもを

千齋

鷄川

あけましてめでたき御座りませうか鷄もまもむもを

高蹊

瀬鷄川

あけましてめでたき御座りませうか鷄もまもむもを

磯足

照射

あけましてめでたき御座りませうか鷄もまもむもを

千蔭

照射

あけましてめでたき御座りませうか鷄もまもむもを

芦菴

照射

あけましてめでたき御座りませうか鷄もまもむもを

清風

照射

あけましてめでたき御座りませうか鷄もまもむもを

芦菴

照射

あけましてめでたき御座りませうか鷄もまもむもを

翁淵

照射

あけましてめでたき御座りませうか鷄もまもむもを

清先

照射

あけましてめでたき御座りませうか鷄もまもむもを

成岳

照射

あけましてめでたき御座りませうか鷄もまもむもを

秋風

螢

かきつねのこゝろを照らす螢の光

頭忠

夕陽の影を消す螢の光

季廣

ささやかなる螢の光

萬蹊

かきつねのこゝろを照らす螢の光

江山

花の影を消す螢の光

和雄

かきつねのこゝろを照らす螢の光

倭文子

夕陽の影を消す螢の光

要清小島

小菫の影を消す螢の光

九乃かきつね

ささやかなる螢の光

為子

五月の螢の光

兼代兼代 繁里

兼代

繁里

螢似玉

海辺螢

澤辺螢

河螢

かきつねのこゝろを照らす螢の光

枝直橋

かきつねのこゝろを照らす螢の光

仲敏

かきつねのこゝろを照らす螢の光

久足

かきつねのこゝろを照らす螢の光

年魚

かきつねのこゝろを照らす螢の光

春庭

かきつねのこゝろを照らす螢の光

大平

かきつねのこゝろを照らす螢の光

和雄

かきつねのこゝろを照らす螢の光

直好

かきつねのこゝろを照らす螢の光

普行秋

かきつねのこゝろを照らす螢の光

八十子間宮

間宮

古橋螢

むらさきくさのつらさるる螢がしる

式部

螢火 照橋

八橋のつらさるる螢がしる

中野 清風

野外螢

まはるる螢のつらさるる

蓮月

里 螢

鬼面をひらきしる

久具 正典

故郷螢

のこりし螢のつらさるる

翁満

閑庭螢

暮れし螢のつらさるる

官地 恒雄

簾外螢

かきしる螢のつらさるる

依平

螢火 透簾

かきしる螢のつらさるる

義裕

竹裡螢

かきしる螢のつらさるる

光彪

復艸

旅人のつらさるる

相 大平

復草露

むらさきくさのつらさるる

蒲菴

復草滋

なまらるる螢のつらさるる

音空

水廻 復草

なまらるる螢のつらさるる

磯足

復草 賸水

なまらるる螢のつらさるる

遊翁

行路 復草

なまらるる螢のつらさるる

官下 正岑

故郷 復草

なまらるる螢のつらさるる

清先

野芹 復草

なまらるる螢のつらさるる

開村 夏園

閑居 復草

なまらるる螢のつらさるる

継光 春臣

夏月

汗あそそ思ののきしきまも涼しき月にかきく種が

大秀

け者涼し初の夜あを吹く一風のそよぶ夜のとれ月

安平

青うらみあ帰まし一夏の月せれあし一の初あつし

規

板の露井よとる涼しき夜と一も白きましくよの月み

大平

短夜月

赤の心したうけハ夏の夜乃唯一のあまそ月かきむ

知紀

夏夜
易明

涼しやかけらる涼しき夏の夜の色もまじむ夜のつき

芦菴

兩後
夏月

さしあら光る涼しき夏の夜のほせ乃ゆられ想はほま

宜光

夏月
入藪

おもしろくゆき涼しき夏の夜のほせ乃ゆられ想はほま

繁里

名所
夏月

清のほろ月すまや拾まらや夜すれまぢ川志まじ

友于

風もれ浦すれ月す一夜のつくえまじしとひららこれ

文雄

山家
夏月

さうあしあまの涼しき夏の夜のあまの夏の夜の月

長儀

お唐の涼しき夏の夜のあまの夏の夜の月

正岑

海辺
夏月

浪はきまじし夏の夜のあまの夏の夜の月

磯足

水辺
夏月

涼しやとあつし夏の夜のあまの夏の夜の月

守部

清涼のつゆまじし夏の夜のあまの夏の夜の月

千町

水上
夏月

あまの涼しき夏の夜のあまの夏の夜の月

亞元

夜川の涼しき夏の夜のあまの夏の夜の月

真秀

水路
夏月

夏のよの月の舟もりあまの夏の夜のあまの夏の夜の月

李隆

船中
夏月

浦はりまじし夏の夜のあまの夏の夜の月

光彪

砂月
志夏

あまのよの月のれはあまの夏の夜のあまの夏の夜の月

清先

納涼

まみのくさくさな海へもきへん反を舟しつゝとむ

重光

水鳥のたがひのうらみもさかきも人のしるあうらうら

秋風

あつちの海へはなれぬとてかきつけぬもさかきもさかき

圓方

おぼろげな海へはなれぬとてかきつけぬもさかきもさかき

磯足

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

景樹

わづらひの海へはなれぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

直兄

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

春蔭

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

守部

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

復蔭

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

舟中納涼

鴨のくさくさな海へもきへん反を舟しつゝとむ

和雄

水鳥のたがひのうらみもさかきも人のしるあうらうら

仲敏

あつちの海へはなれぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

朝吉

おぼろげな海へはなれぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

陸子

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

環

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

千齋

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

光彪

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

吉胤

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

清先

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

翁満

市中納涼

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

翁満

滝辺納涼

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

翁満

水風涼

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

翁満

水盤涼

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

翁満

井邊納涼

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

翁満

舟中納涼

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

翁満

市中納涼

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

翁満

滝辺納涼

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

翁満

水風涼

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

翁満

水盤涼

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

翁満

井邊納涼

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

翁満

舟中納涼

かきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬとてかきつけぬ

翁満

野草
秋近

夕暮の秋の草花をばらばらと花をとりたり

光彪

晩草花

夕暮の秋の草花をばらばらと花をとりたり

秀材

晩復

夕暮の秋の草花をばらばらと花をとりたり

忠正

河復被

夕暮の秋の草花をばらばらと花をとりたり

利亮

各所
家々
復被

夕暮の秋の草花をばらばらと花をとりたり

清風

六月被

夕暮の秋の草花をばらばらと花をとりたり

磯足

名所

夕暮の秋の草花をばらばらと花をとりたり

蓮月

家々

夕暮の秋の草花をばらばらと花をとりたり

光彪

復被

夕暮の秋の草花をばらばらと花をとりたり

圓

玉藻集三卷

秋

立秋

初尾花をばらばらと花をとりたり

重成

夕暮の秋の草花をばらばらと花をとりたり

芦菴

夕暮の秋の草花をばらばらと花をとりたり

廣蔭

夕暮の秋の草花をばらばらと花をとりたり

克巳

夕暮の秋の草花をばらばらと花をとりたり

浦子

夕暮の秋の草花をばらばらと花をとりたり

一枝

夕暮の秋の草花をばらばらと花をとりたり

春雄

夕暮の秋の草花をばらばらと花をとりたり

光平

立秋雨
立秋風

夕方の雲より林をまきつゝ一面の紅葉まきけはせしむ
暮の暮れしら影く吹風よらさき秋はきくそあきき

中村 良臣
磯足
光彪

海辺
湖上

林のいへるまきもむ秋ゆく見らるるの風をゆあぬ
翠のまきかきまきしむ秋まきよの岸のまつ風

官池 明洞
高脩

嶺上
嶺中

まきまき風のまきしむ波のまきも林をまきしむ
る風の浦吹く松のまき波も清くまき林のまつせ

山口 敏樹
高鞞

六月
立秋

目くまのまきも風のまきしむ秋のまきまきまき
まきれの小まきまきまきまき海の波まきまきまき

文雄
十齋

風告秋

吹風まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

知紀

附君
秋末

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

繁里

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

西田 直養

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

藤田 正茂

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

内藤 季尚

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

西田 東平

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

小林 敦子

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

西田 秋子

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

内藤 奈保子

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

西田 たつ子

閑居 早秋

竹まはさしきやとらう初の一まのきふ林をまそしき

芦菴

社頭 早秋

氏人のりてくねはた吹きくしのさうれ林のまつらう

長翁

名所 早秋

初秋早しきうれ林をまそしきとらう初の一まのきふ林をまそしき

磯足

早秋翁

神風早しきうれ林をまそしきとらう初の一まのきふ林をまそしき

直貞

新秋月

三月の月のあけとまの月ひは秋のありれとむあつらひ

光彪

新秋風

裏虫のんもやうまて花むしと吹風涼一秋やまねし

春山

新秋雨

秋の早き秋まきとまき風と都とてくあ見のまの秋

千蔭

新秋涼

風とまよふ涼とくねはた吹きくしのさうれ林のまつらう

忠正

新秋虫

まゆら林のりてくねはた吹きくしのさうれ林のまつらう

元實

初秋

秋をまよふ涼とくねはた吹きくしのさうれ林のまつらう

千齋

初秋月

林のまよふ涼とくねはた吹きくしのさうれ林のまつらう

藤子

初秋風

まゆら林のりてくねはた吹きくしのさうれ林のまつらう

東平

初秋霧

秋の早しきうれ林をまそしきとらう初の一まのきふ林をまそしき

弘道

初秋朝

秋の早しきうれ林をまそしきとらう初の一まのきふ林をまそしき

秀楷

初秋夕

三月の月のあけとまの月ひは秋のありれとむあつらひ

季尚

初秋山

まゆら林のりてくねはた吹きくしのさうれ林のまつらう

正茂

初秋

秋をまよふ涼とくねはた吹きくしのさうれ林のまつらう

正茂

初秋月

林のまよふ涼とくねはた吹きくしのさうれ林のまつらう

藤子

初秋風

まゆら林のりてくねはた吹きくしのさうれ林のまつらう

東平

初秋霧

秋の早しきうれ林をまそしきとらう初の一まのきふ林をまそしき

弘道

初秋朝

秋の早しきうれ林をまそしきとらう初の一まのきふ林をまそしき

秀楷

初秋夕

三月の月のあけとまの月ひは秋のありれとむあつらひ

季尚

初秋山

まゆら林のりてくねはた吹きくしのさうれ林のまつらう

正茂

初秋海

仲つ夜もよき一ひの夜ゆるりつゝのささる木やまの草

念保子

初秋草

もも女の裾中の草葉をくまうたは秋風の吹つてきき

敦子

初秋鳥

ゆるぎなきつらけ一ひの夜をたまたまは秋風の吹

清先

初秋虫

あまたたけいもさうね秋をたまたまききしつゝ麻でさうき

秋子

初秋獣

あまたたけいもさうね秋をたまたまききしつゝ麻でさうき

直養

初秋水

かみくみくすゝ夕の夜をたまたまききしつゝ麻でさうき

弘訓

初秋煙

あまたたけいもさうね秋をたまたまききしつゝ麻でさうき

千華子

初秋藤

あまたたけいもさうね秋をたまたまききしつゝ麻でさうき

猛

初秋煙

あまたたけいもさうね秋をたまたまききしつゝ麻でさうき

森田春蔭

残暑

あまたたけいもさうね秋をたまたまききしつゝ麻でさうき

櫻木

一雨

あまたたけいもさうね秋をたまたまききしつゝ麻でさうき

栢

七夕

あまたたけいもさうね秋をたまたまききしつゝ麻でさうき

圓

七夕

あまたたけいもさうね秋をたまたまききしつゝ麻でさうき

千齋

七夕

あまたたけいもさうね秋をたまたまききしつゝ麻でさうき

久道

七夕

あまたたけいもさうね秋をたまたまききしつゝ麻でさうき

陸子

七夕

あまたたけいもさうね秋をたまたまききしつゝ麻でさうき

久綾

七夕

あまたたけいもさうね秋をたまたまききしつゝ麻でさうき

大平

七夕

あまたたけいもさうね秋をたまたまききしつゝ麻でさうき

知紀

七夕

あまたたけいもさうね秋をたまたまききしつゝ麻でさうき

千蔭

七夕

あまたたけいもさうね秋をたまたまききしつゝ麻でさうき

千蔭

草花
未遍

おれ中ふらふらとわたりて秋のあぢきなくもあつて草

芦菴

秋草花

昔も百金もあつたけりしも花はさかしくもあま

成岳

朝草花

朝のゆきをいづへの女も花たさぬくのちうちもむ

蓮月

野草花

あつてもういづれを花のついでにのちうちもむ

繁里

秋花

もつれもいづれを花のついでにのちうちもむ

西元

薄

まうまうたつきのまもるひのちうちもむ

磯足

薄露

白あつてもつれを花のついでにのちうちもむ

守部

野薄

武士の侍のちうちもむ

芦菴

行路薄

乃の尾花をいづれを花のついでにのちうちもむ

蒿蹊

古砌薄

此花も又いづれを花のついでにのちうちもむ

萩

この昔もゆきとわたりて秋のあぢきなくもあつて萩

貞凍

夕萩

夕月夜をいづれを花のついでにのちうちもむ

無角

月前萩

秋もいづれを花のついでにのちうちもむ

廣蔭

野外萩

秋もいづれを花のついでにのちうちもむ

盛彬

名所萩

主人の侍のちうちもむ

有貞

草菴萩

萩のむらうちもむ

有園

萩

萩のむらうちもむ

清風

萩

萩のむらうちもむ

清風

萩

萩のむらうちもむ

清風

萩

萩のむらうちもむ

清風

女郎花

花もくちかき花もくちかき花もくちかき

伯淹

白き花のうしろに花のうしろに花のうしろに

永忠

花もくちかき花もくちかき花もくちかき

義故

花もくちかき花もくちかき花もくちかき

慈憲

花もくちかき花もくちかき花もくちかき

貞為

花もくちかき花もくちかき花もくちかき

景道

花もくちかき花もくちかき花もくちかき

尚規

花もくちかき花もくちかき花もくちかき

磯足

花もくちかき花もくちかき花もくちかき

中屋

野女郎花

花もくちかき花もくちかき花もくちかき

芦菴

朝貞

花もくちかき花もくちかき花もくちかき

千齋

花もくちかき花もくちかき花もくちかき

磯足

花もくちかき花もくちかき花もくちかき

春親

花もくちかき花もくちかき花もくちかき

猛彦

花もくちかき花もくちかき花もくちかき

成岳

花もくちかき花もくちかき花もくちかき

世宜

花もくちかき花もくちかき花もくちかき

栢

花もくちかき花もくちかき花もくちかき

芦菴

花もくちかき花もくちかき花もくちかき

陸子

花もくちかき花もくちかき花もくちかき

朝子

薺花

雨中
朝日

ちくちくのちくちくハ根をさす水もなる花
母のちくちくもさす水もなる朝の光

亜元

山寺
朝日

藤袴

ちかちかかき花の足袴もさす水もなる
ついでとみ花の糸乃及袴も人の心をさす

光彪

遠里

秋の暮に母の糸乃及袴も人の心をさす

義利

ねぢしんをさす水もなる朝の光

延訓

芥萱

ちくちくのちくちくハ根をさす水もなる花
旅人のちくちくもさす水もなる朝の光

正瀬

露

秋の暮に母の糸乃及袴も人の心をさす

依平

夕の暮に母の糸乃及袴も人の心をさす

繁里

月前露

ちくちくのちくちくハ根をさす水もなる花
ちくちくのちくちくもさす水もなる朝の光

英棟

野徑露

ちくちくのちくちくハ根をさす水もなる花
ちくちくのちくちくもさす水もなる朝の光

春庭

昔巡露

ちくちくのちくちくハ根をさす水もなる花
ちくちくのちくちくもさす水もなる朝の光

伯淹

閑井
露

ちくちくのちくちくハ根をさす水もなる花
ちくちくのちくちくもさす水もなる朝の光

常雄

袖露

秋の暮に母の糸乃及袴も人の心をさす

光彪

廣道

秋の暮に母の糸乃及袴も人の心をさす

磯足

蟲

夕風の吹くをく小鳥の枝にむしりてあはれなる山本元孝

藤葉をく見るとあはれなるのさうれなる廣蔭

小枝をくあはれなるのさうれなる伊藤重成

鳴むの涙をくあはれなるのさうれなる中節

藤葉をくあはれなるのさうれなる如解軒羅窓

あはれなるのさうれなるのさうれなる延之

あはれなるのさうれなるのさうれなる村田綾子

あはれなるのさうれなるのさうれなる浦子

あはれなるのさうれなるのさうれなる蓮月

あはれなるのさうれなるのさうれなる

虫声恨

虫声非一

曉虫

夕虫

月前虫

あはれなるのさうれなるのさうれなる長翁

あはれなるのさうれなるのさうれなる湯川光彪

あはれなるのさうれなるのさうれなる義思

あはれなるのさうれなるのさうれなる和里

あはれなるのさうれなるのさうれなる和田實行

あはれなるのさうれなるのさうれなるとま子

あはれなるのさうれなるのさうれなる利亮

あはれなるのさうれなるのさうれなる内藤忠正

あはれなるのさうれなるのさうれなる本田満達

あはれなるのさうれなるのさうれなる霞菴

雨夜虫

雨後虫

あはれなるのさうれなるのさうれなる

あはれなるのさうれなるのさうれなる

あはれなるのさうれなるのさうれなる

行路虫 仍駒もしきみの虫れつゝまきまきしき月の月仄 規

名所虫 引馬野まうり出てるくまきけはんもいもむく月半丸 鶴雄

豊中 聞虫 小くまきぬらむらむらひの如くの中まもちきりくまき 永好

暮秋虫 林もまきゆの虫れくまきまらひれとむむむの虫えれ 直愛

蛭 山里はゆらふまのまきりくもつゝまらゆれ下まらきり 竹中 守部

蟋蟀 まいゝゝまきゆのつゆ小蟹くまきまらひの虫えれ 守部

鈴虫 ぶとむら尾末末林風一ゆまきまらひの虫えれ 蓮月

松虫 りらくおつゝまき命とまらひまらひの虫えれ 辻 教信

促織 おりまらひまらひの虫えれまらひの虫えれ 清風

蝦 山川の虫えれまらひまらひの虫えれまらひの虫えれ 清風

鹿 子代まらひまらひの虫えれまらひの虫えれ 山 五百杆

鹿 麻のひにまらひまらひの虫えれまらひの虫えれ 南景

曉鹿 秋の夜らまらひまらひの虫えれまらひの虫えれ 重光

朝鹿 曉のまらひまらひの虫えれまらひの虫えれ 利亮

夕鹿 鹿のまらひまらひの虫えれまらひの虫えれ 景嗣

月下鹿 暮の月のまらひまらひの虫えれまらひの虫えれ 圓

暮山鹿 秋風まらひまらひの虫えれまらひの虫えれ 弘道

遠山鹿 小男鹿乃声まらひまらひの虫えれまらひの虫えれ 仲敏

關路鹿 不破の関まらひまらひの虫えれまらひの虫えれ 千浪

野鹿

いづれもいづれも男鹿の春をくんとせめてたのむ夏の小
成岳

あつたにうらやまの花つぎをむすく鹿やなくら
久足

野夜鹿

小羽鹿のちねねの作 大平大平のつぎは林をうけ
直子

野亭鹿

鹿のつぎへの小森のつぎは花をうけくさけ
礒磐

名所鹿

はるまじよのつぎのつぎは花をうけくさけ
祐良

田鹿

風夜をうけくさけのつぎは花をうけくさけ
和雄

田家鹿

ゆきうへはるまじよのつぎは花をうけくさけ
利亮

雁

なつ鹿のつぎは花をうけくさけ
清風

初雁

いづれもいづれも男鹿の春をくんとせめてたのむ夏の小
友干

山初雁

初雁のつぎは花をうけくさけ
千齋

瀬路雁

清見厚雲のつぎは花をうけくさけ
成岳

雁道湊

いづれもいづれも男鹿の春をくんとせめてたのむ夏の小
武雄

田上雁

あつたにうらやまのつぎは花をうけくさけ
知紀

雁

はるまじよのつぎは花をうけくさけ
亜元

雁

いづれもいづれも男鹿の春をくんとせめてたのむ夏の小
文雄

雁

いづれもいづれも男鹿の春をくんとせめてたのむ夏の小
景嗣

待月

月もて裁てゆくをまをりあめりひの二ひの心 富田 常業

与女 待月

あはれにせいのまをねをかきつる鳥の月のれ連つもの 北村 繁里

月

うらけをうらむまを月をねをねく枝を連つもの 丹波 花門

あはれにせいのまをねをかきつる鳥の月のれ 伴 有員

あはれにせいのまをねをかきつる鳥の月のれ 伴 家達

あはれにせいのまをねをかきつる鳥の月のれ 伴 光平

あはれにせいのまをねをかきつる鳥の月のれ 野 弘道

あはれにせいのまをねをかきつる鳥の月のれ 野 隆正

あはれにせいのまをねをかきつる鳥の月のれ 竹 隆正

あはれにせいのまをねをかきつる鳥の月のれ 十代子

秋月

久し月人男女とてゆき見ら枝のあまをたのき 長島 清香

あはれにせいのまをねをかきつる鳥の月のれ 中野 清風

弓張月

あはれにせいのまをねをかきつる鳥の月のれ 中野 千町

十五夜

あはれにせいのまをねをかきつる鳥の月のれ 中野 光彪

十六夜

あはれにせいのまをねをかきつる鳥の月のれ 中野 千齋

九月

あはれにせいのまをねをかきつる鳥の月のれ 中野 成岳

九月

あはれにせいのまをねをかきつる鳥の月のれ 中野 磯足

既月

あはれにせいのまをねをかきつる鳥の月のれ 中野 忠寶

見月

あはれにせいのまをねをかきつる鳥の月のれ 中野 義裕

毎秋

あはれにせいのまをねをかきつる鳥の月のれ 中野 依平

貴賤月

月ひかりのまじりてあはれなる月

景嗣

秋月 勝花

秋の月花の散るる月

頭忠

山月

山に影のあはれなる月

依平

山月 初昇

山の初なる月

繁里

月昇山

月が山に昇る月

守部

深山月

深山の月

文雄

杜月

杜の月

梅子

原月

原の月

守部

武蔵の月

武蔵の月

義蔵

野月

野の月

千町

古月

古の月

古人

高月

高の月

高行

野月

野の月

景嗣

河月

河の月

無角

池月

池の月

美平

江月

江の月

守典

尾月

尾の月

歌城

江上月 多香のみの入る事...のわきみのがりく月か...
冬照

海上月 海不月うけち...の波のついで...
飯田 年平

武士の矢一旬の浦の夕は...
河内 蓮月

つら海のも霧の底の夕...
知紀

浦月 難波...
橋本 正脩

島月 伊豆の海を渡...
守部

浦月 ...
千齋

...
松本 維寧

...
春根

...
紫里

磯月 ...
櫻木

湖月 ...
春庭

...
貞彦

...
亞元

...
文雄

...
景嗣

田家月 ...
春親

...
式部

幽棲月

あまのついでにゆく月夜はあまのついでにゆく

繁里

閑中月

あまのついでにゆく月夜はあまのついでにゆく

元孝

閑居月

あまのついでにゆく月夜はあまのついでにゆく

式部

山家月

あまのついでにゆく月夜はあまのついでにゆく

心城

古寺月

あまのついでにゆく月夜はあまのついでにゆく

磯足

古寺月

あまのついでにゆく月夜はあまのついでにゆく

守信

古寺月

あまのついでにゆく月夜はあまのついでにゆく

亞元

禁中月

あまのついでにゆく月夜はあまのついでにゆく

依平

都月

あまのついでにゆく月夜はあまのついでにゆく

依平

名所月

あまのついでにゆく月夜はあまのついでにゆく

清風

名所月

あまのついでにゆく月夜はあまのついでにゆく

猛彦

名所月

あまのついでにゆく月夜はあまのついでにゆく

依平

名所月

あまのついでにゆく月夜はあまのついでにゆく

依平

名所月

あまのついでにゆく月夜はあまのついでにゆく

依平

名所月

あまのついでにゆく月夜はあまのついでにゆく

依平

名所月

あまのついでにゆく月夜はあまのついでにゆく

依平

名所月

あまのついでにゆく月夜はあまのついでにゆく

依平

松間月 住吉の河ら、松葉まをさうて木の葉の月をみらうとよしも 木下 憲道

月前松 みづの八林を松葉まをさう月の光がうつるともみち神の 義 狛

月前櫓 そのむひぶもかくやみまかり月まをさうとち 小野 桂満

月前鳥 ゆきれ海にあらうと 大橋 景嗣

月前蒲 あらまゝの葉まをさうぬか 大橋 英棟

月前菅 夕いもむ 大橋 圓如

月前硯 翠の上の葉まをさうぬか 有年 有年

月前舟 文れの硯の海 伊藤 永好

月見花 伊藤 祐命

月見花 利 亮

月前述懐 村上 小鈴

月下美人 義 忠

月下侍人 磯 足

月言志 森 八重子

月思事 利 亮

月思事 中野 清風

月思事 篤 慶

月思事 忠 明

水辺菊

あまのつばきあはれをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

千齋

延之

山乃る香はあはれをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

磯足

度菊

うらわねをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

とほ子

古宅菊

いづかもせむをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

光彪

古寺菊

相見よそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

清風

菊

大王の世代長月の菊はあはれをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

知紀

詩菊

秋まなぬのむねをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

安守

重陽宴

くも神のいひをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

義指

十齋

かきつちをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

十齋

持衣

小衣ゆへかこ山里れつちのまへ新さなをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

千齋

直好

あまのつばきあはれをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

直好

蓮月

あまのつばきあはれをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

蓮月

謙光

あまのつばきあはれをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

謙光

景嗣

あまのつばきあはれをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

景嗣

景正

あまのつばきあはれをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

景正

蓮月

あまのつばきあはれをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

蓮月

吉胤

あまのつばきあはれをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

吉胤

篤慶

あまのつばきあはれをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

篤慶

式部

あまのつばきあはれをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

式部

持衣幽

あまのつばきあはれをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

謙光

風中

あまのつばきあはれをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

景嗣

持衣

あまのつばきあはれをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

景正

月前

あまのつばきあはれをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

蓮月

持衣

あまのつばきあはれをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

吉胤

持衣

あまのつばきあはれをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

篤慶

持衣

あまのつばきあはれをよそとせくまのつばきとめくつゆふふ葉

式部

秋風

日人の神のこゝろにふかきまはるるも秋の上風
のきよ又秋のこゝろをたのしみおぼし秋の風をよみて

元幹

海迎秋風

ゆきよちちの波浦風一沖のこゝろも秋をよみて
月もよみて一田舎村のこゝろもよみて

加藤千浪

秋風

あつちのこゝろに秋のこゝろをよみて
秋のこゝろに秋のこゝろをよみて

磯足

秋雨

あつちのこゝろに秋のこゝろをよみて
秋のこゝろに秋のこゝろをよみて

利亮

杜秋雨

あつちのこゝろに秋のこゝろをよみて
秋のこゝろに秋のこゝろをよみて

仲敏

山家秋

あつちのこゝろに秋のこゝろをよみて
秋のこゝろに秋のこゝろをよみて

正徳

山家秋

あつちのこゝろに秋のこゝろをよみて
秋のこゝろに秋のこゝろをよみて

桜木

山家秋

あつちのこゝろに秋のこゝろをよみて
秋のこゝろに秋のこゝろをよみて

清風

山家秋

あつちのこゝろに秋のこゝろをよみて
秋のこゝろに秋のこゝろをよみて

了和

山家秋

あつちのこゝろに秋のこゝろをよみて
秋のこゝろに秋のこゝろをよみて

成岳

山家秋

あつちのこゝろに秋のこゝろをよみて
秋のこゝろに秋のこゝろをよみて

利亮

山家秋

あつちのこゝろに秋のこゝろをよみて
秋のこゝろに秋のこゝろをよみて

圓

山家秋

あつちのこゝろに秋のこゝろをよみて
秋のこゝろに秋のこゝろをよみて

蓮月

惜秋

うき林のついでに秋の別情もろれ

正徳

九月

秋の入り紅雲のまじりみえぬの井の

憲道

暮秋

をうらむるの杜の秋のあはれ

元翰

去秋の人の男も花つゝに別れむ秋を惜ま

清風

やうに林の別れをうらむる秋のあはれ

蓮月

暮秋霜

うらむる野の秋の霜のあはれ

正興

暮秋嵐

啼むる風の秋の嵐のあはれ

宜光

暮秋野

花つもれぬの秋の野のあはれ

繁里

暮秋萩

秋のけしきもあはれ萩のあはれ

有経

九月尽

ふるに代をばいし長月もあはれ

栢

玉藻集四卷

冬

初冬

あつちの風の嵐吹あはれ

芦菴

園の入りあはれあはれ

尚忠

と初は霜の初花咲き

磯足

あはれいしあはれの秋のあはれ

利亮

枯もくしあはれあはれ

式部

山田のうらむるあはれあはれ

蓮月

初冬曉

曉のあはれあはれ

友于

初冬時雨

都の入りあはれあはれ

千蔭

清風

天津宮の山崎初冬の清風は清風より清風と云ふや

清風

中野の清風は昔の清風より清風と云ふや

清風

清風の清風は清風の清風より清風と云ふや

清風

清風の清風は清風の清風より清風と云ふや

清風

清風の清風は清風の清風より清風と云ふや

清風

清風の清風は清風の清風より清風と云ふや

清風

清風の清風は清風の清風より清風と云ふや

清風

清風の清風は清風の清風より清風と云ふや

清風

清風の清風は清風の清風より清風と云ふや

時雨

和雄 秋城

時雨

久足 久庭

時雨

景之 春庭

時雨

義祐 蓮月

時雨

吉胤 景嗣

朝時雨

景嗣

朝時雨

景嗣

朝時雨

景嗣

朝時雨

景嗣

月時雨

夜時雨

山時雨

河時雨

淡時雨

輪中時雨

田家時雨

落葉

落葉 隨風

風前 落葉

落葉 不待風

雨後 落葉

暮衣たひく月をせしむる時雨のちをすしむるを

蓬生のまゝを御の馬のひらきしむるを

まきしむるを御の馬のひらきしむるを

はらけもまきしむるを御の馬のひらきしむるを

たつみせり乃麻の休みのこまきしむるを

まきしむるを御の馬のひらきしむるを

らげしむるを御の馬のひらきしむるを

儘の解り置きしむるを御の馬のひらきしむるを

あまをすすむるを御の馬のひらきしむるを

とくしむるを御の馬のひらきしむるを

式部

西元

安貞

依平

水穂

謙光

利亮

和雄

清風

母部

ちれは我ものまきしむるを

ぬしは枝のまきしむるを

天はまきしむるを

ちれ見むまきしむるを

山風のまきしむるを

あまをすすむるを

海をまきしむるを

村をまきしむるを

あまをすすむるを

むしをまきしむるを

千藤

延之

利亮

吉胤

圓

庭民

久足

年魚

邦武

春庭

村落むすれらあきのひるをわづらうつくみゆりそみちま
 懐むねの—月をうらむるをまをわづらうらむるをわづら
 見—秋のむらまぢのひちりてはるまはつるまのまをま
 みる川のおくのひちりてあまのうらむるをまをま
 山家 落葉 山風まぢのりぢちちやうらむるをまをま
 海辺 落葉 梓弓いとあまのまぢちちやうらむるをまをま
 古寺 落葉 心まのうらむるのひちりてあまのうらむるをまをま
 社頭 落葉 心風まぢのりぢちちやうらむるをまをま
 静處 落葉 竹まのうらむるのひちりてあまのうらむるをまをま
 人どりのあまのまぢちちやうらむるをまをま

飛蟬子
 美濃子
 梢子
 亞元
 利虎
 蓮月
 芦菴
 蓮月
 栢
 光魁

残菊 うらむるをまをま
 秋菊 うらむるをまをま
 水辺 残菊 うらむるをまをま
 寒菴 残菊 うらむるをまをま
 茶中 残菊 うらむるをまをま
 蕙蘭 残菊 うらむるをまをま
 蕙衣 残菊 うらむるをまをま

歌城
 成岳
 大平
 圓
 景嗣
 成岳
 芦菴
 景樹
 土左子
 式部

寒草

かきつばたのこぼれ雪もよそにむらさきとてはやくとて平た

弘訓

寒草嵐

かきつばたのこぼれ雪もよそにむらさきとてはやくとて平た

式部

寒草

かきつばたのこぼれ雪もよそにむらさきとてはやくとて平た

比等之

寒草

かきつばたのこぼれ雪もよそにむらさきとてはやくとて平た

歌城

寒草霜

かきつばたのこぼれ雪もよそにむらさきとてはやくとて平た

芦菴

野寒草

かきつばたのこぼれ雪もよそにむらさきとてはやくとて平た

春庭

寒草

かきつばたのこぼれ雪もよそにむらさきとてはやくとて平た

芦菴

寒草

かきつばたのこぼれ雪もよそにむらさきとてはやくとて平た

歌城

寒草

かきつばたのこぼれ雪もよそにむらさきとてはやくとて平た

光彪

寒草

かきつばたのこぼれ雪もよそにむらさきとてはやくとて平た

寒草

かきつばたのこぼれ雪もよそにむらさきとてはやくとて平た

高蹊

寒草

かきつばたのこぼれ雪もよそにむらさきとてはやくとて平た

守部

寒草

かきつばたのこぼれ雪もよそにむらさきとてはやくとて平た

圓

寒草

かきつばたのこぼれ雪もよそにむらさきとてはやくとて平た

黃中

寒草

かきつばたのこぼれ雪もよそにむらさきとてはやくとて平た

篤慶

寒草

かきつばたのこぼれ雪もよそにむらさきとてはやくとて平た

五元

寒草

かきつばたのこぼれ雪もよそにむらさきとてはやくとて平た

式部

寒草

かきつばたのこぼれ雪もよそにむらさきとてはやくとて平た

芦菴

寒草

かきつばたのこぼれ雪もよそにむらさきとてはやくとて平た

磯足

寒草

かきつばたのこぼれ雪もよそにむらさきとてはやくとて平た

たう子

寒松

岩代の野甲の雪ふりてまじりてなつてまじりてむとふれ
ちりちりあきの海をわめきつねにわらふまじりてふれ

光彪

月照寒松

松をく井中のねり夜更かきまじりて月せうこつね
あけまじりてあきの海をわめきつねにわらふまじりて

延之

冬嶺 寒松

あけまじりてあきの海をわめきつねにわらふまじりて
あけまじりてあきの海をわめきつねにわらふまじりて

式部

寒樹嵐

吹まじりてあきの海をわめきつねにわらふまじりて
吹まじりてあきの海をわめきつねにわらふまじりて

長利

推柴

こつこつおきたたき推柴をまじりてあきの海をわめきつねにわらふまじりて
まじりてあきの海をわめきつねにわらふまじりて

真明

枯野

あけまじりてあきの海をわめきつねにわらふまじりて
あけまじりてあきの海をわめきつねにわらふまじりて

磯足

あけまじりてあきの海をわめきつねにわらふまじりて
あけまじりてあきの海をわめきつねにわらふまじりて

千齋

枯野曙

あけまじりてあきの海をわめきつねにわらふまじりて
あけまじりてあきの海をわめきつねにわらふまじりて

知紀

夕木枯

あけまじりてあきの海をわめきつねにわらふまじりて
あけまじりてあきの海をわめきつねにわらふまじりて

春庭

庭風

あけまじりてあきの海をわめきつねにわらふまじりて
あけまじりてあきの海をわめきつねにわらふまじりて

歌城

河千鳥

上つ流はあつてさういふ川のあつたをむしつてふくまふとあつて

陸子

鴨川は六風はとも一筆のあつたあつたはつたはつたはつたはつた

和雄

あつたはつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

磯足

旅泊

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

吉胤

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

利亮

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

清風

夜千鳥

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

小鈴

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

幸保

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

政幸

水鳥

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

春庭

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

十齋

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

亮泉

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

春庭

水鳥多

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

守部

水鳥

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

景恒

名所

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

仲敏

湖上

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

磯足

水鳥

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

成岳

残雁

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

圓

網代

ひろま乃海よのしるすもみちをまじりてはれりまも

磯足

ひろまのちかきなりんくもいひかきくぬひたよま路の川ら

弘道

たかろも夜まひははあふりそのもいよみ路のあふ木

清風

波をかかちりてしるすもいひかきくぬひたよま路の川ら

茂安

波まおりのたまきよきしるすもいひかきくぬひたよま路の川ら

春庭

河網代

月まのうらみの波りよかひてしるすもいひかきくぬひたよま路の川ら

芦菴

月照

あかろの袖のあひかきくぬひたよま路の川ら

躬國

網代

かろのうけしるすもいひかきくぬひたよま路の川ら

黄中

粟

かろのうけしるすもいひかきくぬひたよま路の川ら

猛彦

湖辺粟

健ろのうけしるすもいひかきくぬひたよま路の川ら

直嶺

叢

めつりて拾ふしるすもいひかきくぬひたよま路の川ら

守部

山ろのまおひてしるすもいひかきくぬひたよま路の川ら

和雄

風入吹くもいひかきくぬひたよま路の川ら

蓮月

行路叢

おろしたたきしるすもいひかきくぬひたよま路の川ら

依平

水上叢

舟もたはらんつあてておつりてしるすもいひかきくぬひたよま路の川ら

蓮月

山家叢

あそびつくもいひかきくぬひたよま路の川ら

仲敏

まらちくもいひかきくぬひたよま路の川ら

篤慶

疎屋叢

まらちくもいひかきくぬひたよま路の川ら

芦菴

柏叢

柏もあつてしるすもいひかきくぬひたよま路の川ら

光彪

竹叢

竹もあつてしるすもいひかきくぬひたよま路の川ら

和雄

待雪

くまに又ちけりてはまはるしつゆのふ日敷のみぞ

御座

清直

ゆり有にちけりてはまはるしつゆのふ日敷のみぞ

義利

ふりまるとまはるしつゆのふ日敷のみぞ

善立

あつれの指小枝のまはるしつゆのふ日敷のみぞ

美濃子

初雪

まはるしつゆのふ日敷のみぞ

中英

まはるしつゆのふ日敷のみぞ

櫻木

朝初雪

まはるしつゆのふ日敷のみぞ

和雄

暮初雪

まはるしつゆのふ日敷のみぞ

知紀

山初雪

まはるしつゆのふ日敷のみぞ

磯足

依初雪

まはるしつゆのふ日敷のみぞ

元

雪

まはるしつゆのふ日敷のみぞ

守部

まはるしつゆのふ日敷のみぞ

芦菴

まはるしつゆのふ日敷のみぞ

春海

まはるしつゆのふ日敷のみぞ

躬國

まはるしつゆのふ日敷のみぞ

季鷹

まはるしつゆのふ日敷のみぞ

大平

まはるしつゆのふ日敷のみぞ

翁満

まはるしつゆのふ日敷のみぞ

尚規

まはるしつゆのふ日敷のみぞ

景樹

まはるしつゆのふ日敷のみぞ

直好

連日雪

雪の降りてはつらつらと雪の降りてはつらつと

磯足

逐日
雪深

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

正廣

獨見雪

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

知紀

曙雪

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

貞樹

夕雪

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

清風

夜雪

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

義裕

月照雪

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

直虎

月前雪

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

景嗣

山雪

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

頭忠

嶺雪

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

正元

遠山雪

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

要人

村雪

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

利亮

海雪

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

清風

松雪

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

守信

桜雪

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

保輔

京雪

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

英為

保雪

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

京之

中野

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

櫻木

清風

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

要人

利亮

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

要人

要人

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

要人

要人

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

要人

要人

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

要人

要人

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

要人

要人

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

要人

要人

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

要人

要人

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

要人

要人

雪の降りてはつらつと雪の降りてはつらつと

要人

深山雪
關路雪

雪の深き山に
關路の雪も

知紀

深の雪は冬に
關路の雪も

義縮

初雪の日は
關路の雪も

磯足

雪の深き山に
關路の雪も

守胤

雪の深き山に
關路の雪も

吉胤

雪の深き山に
關路の雪も

利亮

雪の深き山に
關路の雪も

清風

雪の深き山に
關路の雪も

小鈴

雪の深き山に
關路の雪も

篤慶

雪の深き山に
關路の雪も

年しん

行路雪

雪の深き山に
行路の雪も

磯磨

雪の深き山に
行路の雪も

歌城

雪の深き山に
行路の雪も

式部

雪の深き山に
行路の雪も

歌城

雪の深き山に
行路の雪も

蓮月

雪の深き山に
行路の雪も

磯足

雪の深き山に
行路の雪も

芦菴

雪の深き山に
行路の雪も

知紀

雪の深き山に
行路の雪も

芦菴

浦雪
湖雪

雪の深き山に
浦の雪も

芦菴

雪の深き山に
浦の雪も

知紀

雪の深き山に
浦の雪も

芦菴

雪の深き山に
浦の雪も

知紀

雪の深き山に
浦の雪も

芦菴

雪の深き山に
浦の雪も

知紀

雪の深き山に
浦の雪も

芦菴

雪の深き山に
浦の雪も

知紀

雪の深き山に
浦の雪も

芦菴

河辺雪 与頼の雪は川に流るる雪の如く川に流るる
景樹

水上雪 川の雪は水に流るる雪の如く水に流るる
芦菴

名所雪 名所の雪は名所に積るる雪の如く名所に積るる
吉胤

社頭雪 社頭の雪は社頭に積るる雪の如く社頭に積るる
喜矩

都雪 都の雪は都に積るる雪の如く都に積るる
豊風

山泉雪 山泉の雪は山泉に積るる雪の如く山泉に積るる
知紀

草菴雪 草菴の雪は草菴に積るる雪の如く草菴に積るる
高子

閑中雪 閑中の雪は閑中に積るる雪の如く閑中に積るる
式部

遠村雪 遠村の雪は遠村に積るる雪の如く遠村に積るる
小野方

草菴雪 草菴の雪は草菴に積るる雪の如く草菴に積るる
芦菴

閑中雪 閑中の雪は閑中に積るる雪の如く閑中に積るる
有園

草菴雪 草菴の雪は草菴に積るる雪の如く草菴に積るる
中夜子

草菴雪 草菴の雪は草菴に積るる雪の如く草菴に積るる
式部

草菴雪 草菴の雪は草菴に積るる雪の如く草菴に積るる
津野 撰雄

草菴雪 草菴の雪は草菴に積るる雪の如く草菴に積るる
寿年

草菴雪 草菴の雪は草菴に積るる雪の如く草菴に積るる
知紀

草菴雪 草菴の雪は草菴に積るる雪の如く草菴に積るる
式部

草菴雪 草菴の雪は草菴に積るる雪の如く草菴に積るる
長儀

草菴雪 草菴の雪は草菴に積るる雪の如く草菴に積るる
依持人

草菴雪 草菴の雪は草菴に積るる雪の如く草菴に積るる
依持人

草菴雪 草菴の雪は草菴に積るる雪の如く草菴に積るる
依持人

草菴雪 草菴の雪は草菴に積るる雪の如く草菴に積るる
依持人

草菴雪 草菴の雪は草菴に積るる雪の如く草菴に積るる
依持人

草菴雪 草菴の雪は草菴に積るる雪の如く草菴に積るる
依持人

草菴雪 草菴の雪は草菴に積るる雪の如く草菴に積るる
依持人

雪中 忍人

雪のふりしるすも 春の風も 人の心も 花も 雪に 散る

細根

雪中 春末

雪のふりしるすも 春の風も 人の心も 花も 雪に 散る

純孝

雪中

雪のふりしるすも 春の風も 人の心も 花も 雪に 散る

正時

雪中

雪のふりしるすも 春の風も 人の心も 花も 雪に 散る

龍海

雪中

雪のふりしるすも 春の風も 人の心も 花も 雪に 散る

了觀

雪中

雪のふりしるすも 春の風も 人の心も 花も 雪に 散る

亞元

雪中

雪のふりしるすも 春の風も 人の心も 花も 雪に 散る

利亮

雪中 遊興

雪のふりしるすも 春の風も 人の心も 花も 雪に 散る

在阿

雪中

雪のふりしるすも 春の風も 人の心も 花も 雪に 散る

利亮

田家雪

雪のふりしるすも 春の風も 人の心も 花も 雪に 散る

守道

畠雪

雪のふりしるすも 春の風も 人の心も 花も 雪に 散る

蓮月

松上雪

雪のふりしるすも 春の風も 人の心も 花も 雪に 散る

延之

海辺 松雪

雪のふりしるすも 春の風も 人の心も 花も 雪に 散る

古蔭

竹雪

雪のふりしるすも 春の風も 人の心も 花も 雪に 散る

景雄

雪中竹

雪のふりしるすも 春の風も 人の心も 花も 雪に 散る

長翁

雪中鳥

雪のふりしるすも 春の風も 人の心も 花も 雪に 散る

真菅

雪中 眺望

雪のふりしるすも 春の風も 人の心も 花も 雪に 散る

吉胤

雪中 獨釣

雪のふりしるすも 春の風も 人の心も 花も 雪に 散る

廣足

雪中 寒江雪

雪のふりしるすも 春の風も 人の心も 花も 雪に 散る

式部

雪中 寄雪祝

雪のふりしるすも 春の風も 人の心も 花も 雪に 散る

式部

早梅

ちりそりのくさくさの梅の花
梅の花はさきさきと咲き
さきさきと咲き梅の花は
さきさきと咲き梅の花は

成岳

庭早梅

あつねの梅もさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き

千蔭

梅先春

春の梅もさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き

芦菴

年内早梅

口をささぐり梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き

肥後

冬雲

年末の雲もさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き

正典

冬風

冬風の吹く梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き

櫻木

冬夜

冬夜の静けさ梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き

土左子

海辺冬

海辺の冬梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き

十齋

冬山村

冬山村の静けさ梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き

景嗣

冬山家

冬山家の静けさ梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き

謙光

冬庭

冬庭の静けさ梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き

歌城

冬庭

冬庭の静けさ梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き

蓮月

冬庭

冬庭の静けさ梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き
梅の花はさきさきと咲き

和雄

